

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (60) (A Basic Way of Reading Trump-Language)

後 藤 寛

本連載で見ている英文は Basic 言語の考え方を織り込んでいるわけで、入門期の検定本 3 巻を終えたあとの 4 年目からは扱える。内容的にも無理はないはず。関連事項は 'brainstorming' により大学生にも利するものとして幅広い見方・扱い方をしている。

2016 年の大統領選に関わるいわゆるロシア疑惑は本連載(41)で見たように晴れた形になっていたが、野党民主党議員はその後 2020 年の大統領選を見据え、あいかわらず捜査報告書の不備を訴えていた。今回は(1)と(2)でこれに関わる内容のものを確認してみる。

(1) "I completely read the entire Mueller Report, and do you know what I concluded after reading both Volume 1 and Volume 2 ? There is no there there. NO THERE THERE! We completely wasted everybody's time and taxpayer's money."
@trish_regan (July 22, 2019)

▲これは女性ニュースキャスター@trish_regan の tweet を Trump 氏が Twitter 上にそのまま示したロシア疑惑を捜査したマラー特別検察官（当時）の捜査報告書に関するものである。彼女は「私はマラー報告書を全部読み、1 巻と 2 巻を読み終えてどのように結論付けたかお分かりでしょうか？何もありません、まったくなしです！私たちはすべての人の時間と納税者のお金をまったく無駄にしたのです@trish_regan」と書いている。

文中で下線とした語 read は過去形で、[red]となることは読みの瞬間に直感したい。

太線語 entire は本連載(18)の(1)、また(30)でも扱ったので確認となる。entire {en (= not) + tire (= touch)}で、「触れられていない」→「まったくそのままの」→「完全な」のように考えればよいと言った。Basic 語 **touch, take, taste, tax**、プラス α Basic 語 **texture** (生地・織物)、**tissue** (ティッシュ)、**taxi** (タクシー)、un-Basic 語 **contact, tag, tangible** (具体的な)、**tangent** (接線) など多くの同系語が派生した。tax は物品に触って課税するという考え方から来ている。**taxi** はそういう税金 (料金) を請求する計器を備えた荷車のこと〔さらには拙著(2016)、「松柏社」、第二部、例(11)参照〕。

太線語の動詞 waste は名詞の **waste** としては Basic 語で、本連載(42)の(3)で扱った。「無いこと」が原義である。un-Basic 語の **want** (欠けている→欲しいと思う) も同系。ゲルマン系の[w]はラテン系では[v]となる例を何度も見てきたが、void, vacant, avoid, vacation, vacate (空にする)、vain (無駄)、vanish (消える)、evacuate (非難する)、devastate (荒廃させる) などはずべて同系〔同上拙著、第二部、例(79)参照〕。

太線の Basic 語 **money** はローマ神話の女神 Juno **Moneta** (ユノ＝モネタ) を祭る神殿で最初の貨幣が鑄造されたことなど、貨幣制度の確立する時代まではさかのぼって一般に由来が示されはする。英語史では money は 14 世紀の初出で同系語の mint (造幣局) が 15 世紀の初出と説くが、問題はそれ以前のそもそも money のルーツである。印欧祖語 PIE の etymon (推定音素形) は/MON/として復元されていて、mane (馬、ライオンなどのたてがみ) ともどうやら同系で元は首 (うなじ・首筋) のこととされ、mane はさらに装飾品のネックレスの意味にもなったようである。

文中下線部の There is no there there. と NO THERE THERE! の existential sentence (存在文) は「そこにはまったく何もない」の意味で、このあたりは哲学上の 実存主義的(existential) / 存在論的(ontological)な見地から Ogden-Richards の *The*

Meaning of Meaning (1923)『意味の意味』、さらに前回触れた G. Blocker による *The Meaning of Meaninglessness* (1974)『無意味の意味』での存在(existence)と場(place)のテーマ・解釈としても重大な意味をもつ。Hi, there ! (やあ、こんにちは!)、There you go again ! (また、そういうことを!)、It's getting better, there ! (よくなっているよ、ほら!)等々、くだけた there の使い方とも並行するが、こういう there は 'PE' (Panoptic English)へと導く EP 本では排除され使えない理屈となる。

なお、deixis (直示語) here は{he(= this) + re (= place)}、there は{the(= that) + re (= place)}に由来することは本連載(28)ですでに確認しておいた。

(2) “Mueller was asked whether or not the investigation was impeded in any way, and he said no.” In other words, there was NO OBSTRUCTION. @KatiePavlich @FoxNews (July 24, 2019)

▲これは Trump 氏が女性コラムニストで@FoxNews 社の@KatiePavlich の tweet を示したもの。“マラー特別検察官は捜査が何らか邪魔されたことがあったかどうか尋ねられ、「ない」と答えました”。これは司法妨害はなかったということです @KatiePavlich。

太線語 **whether** は本連載(18)の(2)で例に出したので、これも確認となるが「問い求めること」が原義で、疑問詞の **which, what, where, when, why, who, how** もすべて同系語である。他に多くの語が同系語として一括される〔同上拙著、第二部、例(56)参照〕。

太線語 **investigation** (調査) はプラス α Basic 語で morpheme / semanteme (形態素)からは{in- (= in) + vest + ig (= act) + -ation}であるが、-vest- から clothing (衣類)とは関係ないだろうか？「衣類で包み込む行為」(ig > act は PIE etymon /AG/より)が **investigation** の原義と関わっていないだろうか？目下、学説とはなっていないので憶測である。今後追究していきたい。なお、プラス α Basic 語 **investment** (投資) は本連載(40)の(2)で vest から「衣類で身を飾り投資家ぶること」に由来すると言った。「投資」が fashion (モード・ファッション)での「衣類」と関わる点は興味深いことである。また、ゲルマン系の wear (着る) は上の(1)で触れたが、やはりこれも[w]が[v]となったラテン系の語 vest (ベスト) と同系。

太線語 **impede** (妨げる) は本連載(18)の冒頭でも見たが、**impeach** (弾劾する) と同系である。**impede** は{im (= in) + pede (= foot)}ということで、**pedal** (ペダル)、**expedition** (探検・遠征)、**pedestrian** (歩行者) などラテン系での ped の[p]がゲルマン系では[f]であり Basic 語 **foot** と同系である〔同上拙著、第二部、例(26)参照〕。

下線の **In other words** (換言すれば) は It means that ...の意味で Basic では It is to say that ...でもよいが、人間関係は words の交換(exchange)である。なお、Basic 語 **exchange** は EP 本 III, p.97 で初出となり社会での貨幣交換の商取引を扱っている。

太線語 **OBSTRUCTION** は法律用語でもあり、Basic 語 **destruction** などと同系。

次にこの tweet 文の decode 化で MSOE / ASMOE スクリーン上へ「射影」(projection)し、上記 ontology 的な 'seeing it as X' (X としてそれを見る) での X を見たい。

STATEMENT					
		THEME: NP	RHEME : VP		
STR	C/C	N ₁	COP/V	N ₂ /N ₃ /A	ADV
1	ϕ	“Mueller	was asked	ϕ	ϕ
2	whether or not	the investigation	was impeded	ϕ	in any way /
3	and	he	said	no.” //	ϕ

1		φ	φ	φ	In other words, /
2	φ	φ	φ	φ	there
3	φ	NO OBSTRUCTION. //	(∞) was	φ	φ

(備考) 単一斜線 (／) は各々の文での意味的 2 分割線。(∞)は前項との反転(reversion)を示す。

空・無(φ)の項は上記 ‘NO THERE THERE.’ということになる(?)が注目点である。また、ここでは法律用語でもある obstruction (公務執行妨害) の意味にも要注視。

さらに次に今回も上の(1), (2)の文例が発話されたものと想定し、音声面から[l]音と[r]音が語頭・語中・語末に現れるすべての箇所(米音の場合)を確認しておく。

(1) ‘I completely read the entire Mueller Report, and do you know what I concluded after reading both Volume 1 and Volume 2? There is no there. NO THERE THERE! We completely wasted everybody’s time and taxpayer’s money.”

(2) ‘Mueller was asked whether or not the investigation was impeded in anyway, and he said no.” In other words, there was NO OBSTRUCTION.

ここでも英音(米音)で[l], [r]音が支配的に現れ全体の響きが特徴的にかもし出される。1)’の completely には[l]音が2度現れる。またこの語には本連載(43),(45),(49),(53)、さらに前々回(58)でも注目した[tli]音が語尾に現れる。[tli]と共に有声の[d]の場合の[dli]にも要注目である。(2)’では[l]音は1箇所(箇所)に現れ他はすべて[r]音である。語頭・語中・語末に現れる英音[l]と[r]をどちらも日音の[ラ]行音になしきずし漫然と聴いている限りは、決して英音に耳は開かず英語力も真には身についてこない。

非母語話者にとり外国語としての英語修得では能動的に speaking 力と writing 力以前にまずは受動的に reading 力と hearing 力をつけることの重要性がある。書かれた英語文の各語の結合法が pattern として納得でき読めるか? また、発話される1語1語が語として聴けるか? 人の発話がそのまま心の中で復唱(repetition)できるか? さらに、復唱できたものを transcription で書き起こしができるか? となろう。

別な言い方をすればある種の pattern に基づき書かれた文がスラスラ読みながら分かり、分かりながら読めるか? また、発話された文が聴きながら分かり、分かりながら聴けるか? さらに、聴いた文をそのまま書き起こせるか? ということになる。

なお、Ogden-Richards は臨床的に pattern などの recognition (認知: seeing that it is) のできない「病」の例として amnesia (健忘症) と aphasia (失語症) を引き合いに出してもいるが、それを verbal, syntactical, nominal, semantic の4種に分類している [The Meaning of Meaning (10th edition), pp.218-219 参照]。

日本人にとり最大の悩みはやはり英音の聴取で、特に1音節語の聴取だろう。本物の聴取力を試す方法の例として、たとえば生の acoustic environment (音環境) で喧嘩の場面ばかりを集めた録画などで人が何と言っているかを口頭で復唱できるか? 同時にそれを transcription (書き起こし) で示せられるか? がある。

近年は音声自動書き起こしアプリの開発研究もなされていて、これが本格化すれば英音の文字への transcription や日本語字幕付けには便利なものとなるが、そもそも高ヘルツ(high frequency)の英音を日本人の民族聴覚脳でもすべて聞こえてしまう方法はないか? 本連連載(49)で触れておいたフランスの耳鼻咽喉科医の A. A.Tomatis は言語の周波数帯(passband)から民族別の ethnograph を割り出し電子工学的な電子耳(electronic ear)を開発した。これは日本人にとり英音聴取上での裏技といえよう [詳細は日本ベーシック・

イングリッシュ協会研究紀要 No.16 (2009)での拙稿「BasicEnglish と音声：聴覚神経レベルからのアプローチ」参照〕。

彼のフランス語版著 *Nous sommes tous nes polyglottes* の日本語翻訳版表題“人間はみな語学の天才である”での「天才」とは、人間（社会的人間）であれば誰でも生後に必ず身につける能力（神から与えられた能力）の意味であり structural linguistics 風の linguistic competence（言語能力）の意味と解すべきものである。なお、このあたりの言語観は EP 本 III では pp.64-69 で示唆されはする。

ここで上記 pattern recognition と臨床的(clinical)な面から特別に1つ扱っておくが、米国の Helen Keller 女史(1880-1968)は生後に盲聾啞の病を患い重度の身体障害者になったがそれでもその後、家庭教師役であった Miss Sullivan を介し言語（英語）を習得し社会福祉事業に貢献したことが彼女による自伝 *The Story of My Life* (1903)に記されている。その一端の分かる一節を別途、次に示しておく。

... I had a frame in which I could arrange the words in little sentences ; but before I ever put sentences in the frame I used to make them in objects. I found the slips of paper which represented, for example, “doll,” “is,” “on,” “bed” and placed each name on its object ; then I put my doll on the bed with the words *is, on, bed* arranged beside the doll, thus making a sentence of the words, and at the same time carrying out the idea of the sentence with the things themselves.

これは language acquisition theory（言語習得論）上で示唆に富むものである。視覚も聴覚も欠いた Helen Keller は触覚(sense of touch)を用いる Braille(点字)により reading をしたわけで、鑄型としての frame（枠）の中に words を次々と入れていくことで英語文の pattern 認知の方法を発見した。frame といえば本連載(53)などで扱った C. J. Fillmore の Frame Semantics（フレーム意味論）との関わりも想起されよう。Helen Keller に関しては 20 数年前に当時の本会 Newsletter で複数回に渡りテーマとしたことがある〔Helen Keller に関する他の文例は同上拙著、第三部、pp.214-220 参照〕。なお、EP 本 II (p.116)に語 ‘Braille’に関する文例があるが Braille は考案者でフランス人の L. Braille に由来する。

（演習）本連載（56）～（60）より

次の①～⑮の語と同系の Basic 語は下の a)～o)のうちどれか（即座に正解したい）。

- | | | | | |
|------------|------------|--------------|-----------|------------|
| ① essence | ② clause | ③ leave | ④ staff | ⑤ approach |
| ⑥ sleeve | ⑦ bold | ⑧ prosperity | ⑨ condemn | ⑩ comment |
| ⑪ innocent | ⑫ genocide | ⑬ vacant | ⑭ mint | ⑮ impede |

* * *

- | | | | | | |
|---------|------------|-----------|-------------|-------------------|-----------|
| a) blow | b) cloth | c) damage | d) decision | e) foot | f) living |
| g) mind | h) money | i) night | j) probable | k) representative | |
| l) slip | m) special | n) stick | o) waste | | |

正解 すべて見てきたもの。音感と語感と意味の関わりであり、ほぼ瞬間に感じ取りたい。

① k)	② b)	③ f)	④ n)	⑤ j)
⑥ l)	⑦ a)	⑧ m)	⑨ c)	⑩ g)
⑪ i)	⑫ d)	⑬ o)	⑭ h)	⑮ e)